

2021年度 事業報告

I 施設の設置・運営事業《公益目的事業(WAC事業)・その他事業1・2》

- 公益目的事業：WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営
- その他事業1：疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者(全利用者の3割相当)に該当する部分
- その他事業2：介護老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター(奈良事業のみ)

***WAC(ウェルエイジングコミュニティ)事業：**
1989年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

(1)奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業：1990年10月17日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・スタジオ、プールレッスンは、四半期毎にニーズに合わせたショートレッスン、ジムスモールエクセサイズを導入、展開し、入居者、一般会員問わず多くの方々に好評でした。
- ・地域会員数増加を目指して、上期は通常のオリジナルチラシを作成し、商圏3km以内に8,000部のポスティングを実施しました。下期はチラシ等外部宣伝は行わず、既会員からの紹介キャンペーンに注力しました。結果、新規入会に波はあったものの、退会防止により会員数の減少には一定の歯止めがかかった状況であります。

②診療所 (WAC第1号施設付置診療所) 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・新型コロナワクチン接種施設におけるサテライト型(連携型)として、入居者・職員等の接種を実施しました。また、河合町や地区医師会との密な連携により地域住民の受入れを積極的に行いました。その結果、河合町の感染症対策にも貢献、収益の増収にも繋がりました。
- ・入院は、必要な患者を迅速に受入れることにより、年間を通してほぼ満床となりました。また、在宅部門との連携により、レスパイト入院の受入れも積極的に行いました。
- ・外来は、1月より発熱外来認定医療機関として奈良県より認定を受け、発熱者及び濃厚接触者の抗原検査(27件)、PCR検査(132件)を実施しました。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ふれあいプラザ】

- ・文化教養講座は河合町立文化会館まほろばホールを使用し、入居者と一般受講生を別々とする二部構成で再開をしました。ただし、朗読講座やオペラ講座といった発声や歌唱を伴う講座は中止しました。その中で、2名の講師を招き「筆文字アート講座」「押し花アート講座」を企画立案しました。
- ・情報紙「ふれあい西大和」は、年4号を各5,000部発行しました。紙面には毎月入居者募集に関するお知らせ、ベテルホームの利用案内、ニッセイ・アーク西大和の会員募集を掲載しました。今後も継続してWAC施設の広報活動を行っていきます。
- ・エデン祭参加企画では、安心・安全に芸術作品に触れる機会を設けるため、入江泰吉記念奈良市写真美術館の協力のもと「入江泰吉写真展」を開催しました。来場者数は262名でした。

④在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与・販売事業] (WAC第3号施設) 【ニッセイせいでい在宅介護サービスセンターヘル西大和店】

- ・新型コロナウイルス感染症対応に追われる一年となりましたが、感染予防対策の徹底で職員やヘルパーから感染者が出ることなく運営できました。収支についても複合施設の強みを活かし、他部署への応援派遣などで収支を伸ばすことができました。
- ・登録ヘルパーの高齢化や減少に伴い、パート職員1名を1月より採用し運営を行いましたが、引き続き人材確保に向けた取組の継続が必要です。

⑤訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC第3号関連施設) 【訪問看護ステーション西大和】

- ・コロナ禍において、積極的な渉外活動は行えませんでした。必要な情報提供はタイムリーに行い、居宅介護支援事業所や主治医との連携に努めました。
- ・リハビリ職員の退職に伴い、医療保険対象の利用者は減少しましたが、超過勤務削減等費用を抑えることにより、利益を確保することができました。

⑥ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC第3号関連施設) 【ニッセイせいでいケアプランセンター西大和】

- ・「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用を継続し、入院時連携や退院前カンファレンスなど医療機関との連携強化に積極的に取り組みました。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、介護サービスの控えや身体機能低下に伴う利用ニーズが増える中、医療・介護・地域との連携強化を図り地域ニーズに対応したことで新規依頼が増え予算達成できました。

⑦有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は鍵渡しベースで12戸、退去が18戸(うち、介護居室への住替えは5戸)でした。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は403戸(総戸数412戸に対し入居率97.8%、入居者数519人)となりました。(一般居室354戸/362戸(入居率97.8%)、介護居室49戸/50戸(入居率98.0%))
- ・入居者の平均年齢は82.9歳(男性81.8歳、女性83.3歳)となり、対前年+0.4歳でした。
- ・総入居者数519人のうち要介護等認定者数(割合)は年度末で144人(27.7%)となりました。
- ・地域連携について、近隣小学校児童下校時の安全確保のため、入居者と職員(園全職場)で見守り活動を継続しています。また、世代間交流として年2回河合町立こども園に訪問し、園内ボランティア「虹のわ」の入居者が制作した人形をプレゼントしました。また、地域との災害時における防災協定締結により、非常時における園としての協力体制が明確になりました。
- ・終末期に自分らしく生ききる支援が行えるように「人生会議」を計画し、身元引受人も交え入居者の思いを話し合う場を設けることができ、一般居室入居者を対象に10件実施することができました。
- ・働き手のニーズに合わせ短時間パート採用と定着をすすめ、多様な働き方への対応と職員採用力の強化に努めました。また、障がい者の就労実習を7名受入れ、専門学校等の若年者採用につながりました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、感染疑い事例に対し速やかに判断、対応できる運用と検査体制を構築した結果、一部感染者は発生したものの、集団感染は防ぐことができました。
- ・介護加算要件である定期的入居者状態管理が、業務基幹システム(ETS2020)により把握可能となり、新規加算LIFE(科学的介護情報システム)へのデータ提出等が効率的に実施できるようになりました。
- ・開園30周年記念として、プロジェクトメンバーを中心に2022年度実施に向けて企画立案を行いました。コロナ禍の影響を見ながら4月7日の記念式典・記念御膳の提供等を検討しています。

⑧老人保健施設〔介護老人保健施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション〕
（WAC付帯施設）【奈良ベテルホーム】

- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延していたが、在宅復帰に関しては相談員・施設ケアマネジャーが中心となり、居宅介護支援事業所と協力しながら例年同様に在宅復帰を進めることができました。
- ・入所については、上半期目標数値は確保できたものの、下半期になり利用者・職員のコロナ陽性者の影響でショートステイの受入れを停止、通所リハビリテーションは職員のコロナ陽性の影響で、7日間営業を停止したことなどにより、通期では入所、通所リハビリテーション共に収益未達となりました。
- ・平時より新型コロナウイルス感染症対策の訓練を行ったことにより、一部感染者は出たものの、迅速なゾーニングや職員の対応により、利用者対応をスムーズに行うことができ、感染拡大を防ぐことができました。
- ・SDGsの取り組みとして、利用者家族・職員より古着や食品の提供を受けました。古着は100着送りポリオワクチン購入等に役立ててもらい、食品は奈良フードバンクに提供し活用してもらいました。

(2) 松戸事業 (厚生労働省WAC認定事業：1994年12月15日付)

①疾病予防運動センター（WAC第1号施設） 【ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸】

- ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら時短営業を継続しました。地域会員も徐々に新規入会数が回復してきました。また、大々的なイベントや地域行事への参加等は自粛を継続していますが、屋外でのランニングやウォーキングイベントについては徐々に再開しました。
- ・募集・宣伝活動は、引き続きWEB掲載や戸建てへのポスティングを実施して会員獲得に努め、既存会員からの紹介入会や体験入会も多数あり、利用者に安心して施設を利用いただける事を確認いただき、新規入会獲得につなげました。
- ・館内リニューアルや清掃、消毒、メンテナンスを徹底し、その内容を館内掲示とホームページに掲載しました。

②診療所（WAC第1号付置施設） 【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・新型コロナウイルスワクチン接種の実施医療機関となり、入居者ならびに職員へのワクチン接種を3回実施する事ができました。
- ・蔓延防止等重点措置期間やコロナ禍での新規の外部患者は制限したものの再診患者の受け入れを継続しました。また、外部病院との速やかな入退院調整により地域連携に貢献することができました。

③高齢者総合福祉センター（WAC第2号施設） 【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・コンサートなどのイベントを原則、無観客にて毎月開催しました。入居者には園内ケーブルテレビでの配信を行い、10月、12月、3月は人数を制限して有観客での開催を実現しました。地域の方向けには開催したイベントの動画をYouTubeで配信しました。
- ・定期教室は12教室中、9教室を再開することができました。体験教室では能楽教室で開催し、入居者15名、地域の方2名に参加頂き、5名の新規入会に繋げることができました。

④在宅介護サービスセンター〔訪問介護事業〕（WAC第3号施設） 【ニッセイエソヘルパーステーション】

- ・感染予防策の徹底、全職員の3回目ワクチン接種、頻回なPCR検査により、利用者および介護職員共に安心してサービスを継続することができました。利用者・家族・他事業所の訪問者などの陽性または濃厚接触者の発生の際には、他事業所との連携により滞ることなく支援することができました。
- ・要支援者が増加している一方で、他に支援を引き受ける訪問介護事業所が少ないため、介護支援専門員からの依頼により、要支援者の契約件数が増加しました。
- ・Zoomによる外部研修やeラーニング受講により、職員の知識向上に努めました。

⑤有料老人ホーム〔特定施設入居者生活介護事業〕（WAC第4号施設） 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は鍵渡しベースで21戸、退去が17戸（うち、介護居室への住替えは8戸）でした。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は340戸（総戸数352戸に対し入居率94.6%、入居者数412人）となりました。（一般居室301戸／315戸（入居率95.5%）、介護居室32戸／37戸（入居率86.5%））
- ・総入居者数420人のうち要介護等認定者数（割合）は、年度末で133人（31.7%）となりました。
- ・『春の催し』で行なった物品販売では、事前申し込みと当日対面販売でのハイブリット式とし、感染拡大で中止になった際にも買い物をお楽しみいただけるような企画としました。また、ローソンの移動販売では、各課が連携して入居者の望む生活スタイルに合わせて定期受け取りができるような仕組みを構築しました。
- ・新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止のため2021年3月より隔週で全職員（委託職員含む）を対象としたPCR検査を実施し、9月からは毎週実施まで拡大し感染予防・感染拡大防止に努めました。
- ・SDGsの取り組みへの参画として、コロナ禍における社会貢献にもつながるフードバンクを3回/年実施することができました。また、業者と連携して入居者の家財のリサイクル・リユース企画を実施し、使用しない食器や衣類の再利用の意向や、終活をかなえることにも繋げました。

II 調査研究事業 《 公益目的事業 》

(1) WAC事業の展開の中で、高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野
(以下「4分野」という)に関するノウハウ・スキルの研究と成果の情報提供

- ・2020年度まで9年間にわたり調査研究を行った「あんしん電話」（自動応答電話と見守りボランティアを活用した独居高齢者の地域見守りサポートシステム）について、2021年度は当事業主体法人へ広告宣伝支援等部分的なサポートを実施しました。
- ・京都大学大学院工学研究科の三浦教授の協力を得て、奈良施設の入居者を対象とした「高齢期におけるスマートフォン活用の効果」の調査研究を2022年より開始することを決定し、調査対象者の選出や、スマートフォン講座の準備を2021年度中に実施しました。
- ・2019年度よりセントラルスポーツと河合町の協力を得て行っている「歩行能力向上」をテーマとする調査研究を継続し、当初の目的である「介護予防の普及に貢献する集団プログラムの開発」に、「オンライン参加の有効性検証」というテーマも加え、新たな形でのプログラム開発する実証研究を行いました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を、新型コロナウイルスの影響で簡易的あるいはDVDによる開催に変更しました。
(社会福祉法人 聖隷福祉事業団及び一般財団法人 日本老人福祉財団との共同研究)

(2) 地域住民等への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、入居者や近隣にお住まいの高齢者及びそのご家族に、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取組みを実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で開催を見送りました。
- ・新型コロナウイルスの影響で、認知症や転倒予防等をテーマにした講演会・教室は開催を見送りましたが、松戸施設では園内ケーブルテレビを活用して、入居者向けの転倒予防の講習会等を配信するなど、介護・介護予防に関する情報提供に努めました。
- ・奈良施設では、地元河合町が行っている介護予防リーダー養成講座「しゃきつと教室」に講師を派遣予定でしたが、2020年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で地域行事等が全て中止となりました。

Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行っており、1人当たりの奨学金の金額は年間24万円(月2万円)、2021年度の支給者数は48人で、支給を受けた実人数は合計785人となりました。
- ・「介護人材不足」解決の一助となるよう、日本語学校に通う外国人留学生で、かつ介護福祉士を目指す学生に対して、2020年度より介護福祉士養成施設への入学予定者に対してサポートを拡充開始しました。1人当たりの奨学金の金額は入学金相当額の一律20万円で、2021年度は8人へ支給しました。